



歴史資料を読み解く

史料 『歴代宝案』

関連資料

- ① 『歴代宝案』 訳注本 1-40-20
- ② 鎌倉芳太郎資料「歴代宝案」1集40巻 40・41枚目
- ③ コラム 歴代宝案と東南アジア
- ④ コラム 琉球の進貢品-硫黄編

①



②



③



④



テーマ 琉球の中継貿易-東南アジアへの文書-



史料 琉球国中山王尚巴志からシャム国あて、欲沙每らを派遣することについての文書

(1436年)

琉球国中山王よりお手紙いたします。

わが国は遠く遠海にありながら、これまで長く貴国（シャム）と友好を深め、周辺の国々とは家族のように付き合って参りました。今回は、欲沙每を正使とし、贈り物を持たせて感謝の思いをお伝えしますので、お受け取りいただければ幸いです。また、持参する陶磁器とシャム国の胡椒・蘇木*1との公平な交易を許可していただけないでしょうか。帰国して、それらを明国（中国）への献上品にしたいと思います。すみやかに交易を行い、季節風によって国に帰れるようお取りはからいください。贈り物を持たせ、文書をお送りします。

贈り物の一覧

模様のある織物五疋	青色の織物二十疋
腰刀五本	彩色扇三十本
青磁*2の大皿二十枚	青磁の小皿四百枚
青磁の碗二千個	硫黄*3二千五百斤

シャム国に送る。

正統元年（一四三六）十月一日

船一隻、通訳官は鄭智・梁徳仲を派遣する



古都アユタヤ王宮内にあった寺院
ワット・プラシーサンペット遺跡

『歴代宝案』第1集40巻20号文書より

解説

- ・『歴代宝案』は、琉球国王が諸外国と交わした外交文書を書き写した記録です。原本は沖縄戦などで失われたとされています。
 - ・この文書は、尚巴志からシャム国あてに送られました。使者の欲沙每らを派遣し、贈り物を送ることが記されています。
 - ・シャム（アユタヤ朝）は、現在のタイにあった国です。中国人やアラビア人などの外国商人が訪れました。
 - ・1368年に建国された明は、民間人の渡航や貿易を禁止しました。そのため、明は琉球などの朝貢国にのみ交易を許可しました（朝貢貿易）。
- *戦前に撮影された『歴代宝案』原本の写真が残されています。

→ 見てみよう 鎌倉芳太郎資料「歴代宝案」1集40巻 40・41枚目

→ 行ってみよう 御物城跡

那覇港内の岩礁に築かれたグスク。海外の交易品を収蔵する倉庫があった。那覇軍港内にあるため、立ち入り禁止であるが、遠方から眺めることができる。

用語

- *1 蘇木 蘇芳の木の心材（木の中心部分）。染色に用いた。
- *2 青磁 微量な鉄分を含んだ釉薬を塗布して焼き、青緑色に発色させた磁器。
- *3 硫黄 琉球の硫黄島で採掘された。火薬・薬品の原料として用いられた。

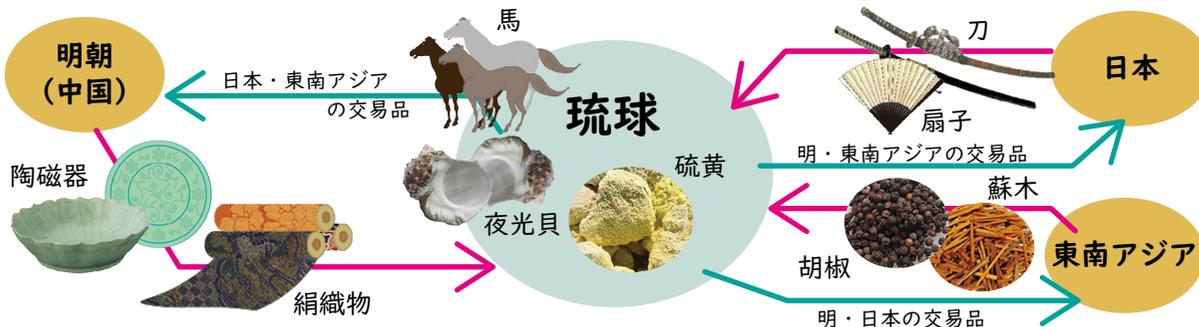


図1 中継貿易におけるモノの移動のイメージ

考えてみよう! ① 琉球はシャムで何を手しようとしているのでしょうか。

考えてみよう! ② シャムへの贈り物はどこで入手したのでしょうか。ヒント：図1